

秋季全国火災予防運動  
11月9日(木)～15日(水)

これからの季節は、空気が乾燥し、火を使う機会が増えることから、火災が発生しやすい時期を迎えます。火の取り扱いには十分注意しましょう。一人ひとりが火災予防の知識を持ち、それを実践することにより、火災の発生を防止することが出来ます。日ごろから次のことを心がけ、私たちのまちから恐ろしい火災をなくしましょう。

【注意事項】

- ・寝たばこは絶対にやめましょう
- ・ストーブには燃えやすいものを近づけないようにしましょう
- ・ガスコンロなどのそばを離れる時には、必ず火を消しましょう

消防課

☎ 23局 4 0 7 4 FAX 23局 2 4 4 0



放置自転車クリーンキャンペーン  
11月1日(水)～30日(木)



自転車を放置しておく、街の景観が損なわれるだけでなく、事故や防災の側面でも問題になります。自転車置場を利用して放置自転車をなくしましょう。また、自転車置場に長期間放置されている自転車も多くみられます。不要になった自転車は、所有者が責任を持って処分し、自転車置場を有効利用できるようにしましょう。

総務課

☎ 23局 3 5 0 6 FAX 23局 0 1 8 0



身近な生態系が危ない!  
— 外来生物がおよぼす影響 —

現在、日本の野外に生息する外来生物種数は、2000種を超えるといわれています。田原市内でも、ウシガエル、「オオクチバス(ブラックバス)」、「ブルーギル」、「アルゼンチンアリ」、「ミズヒマワリ」などの目撃情報があります。

田原市にも...

オオクチバス(ブラックバス)



市内のほとんどの池に生息すると思われる「オオクチバス」は、在来の魚類や水生昆虫の減少を招いていると考えられます。これ以上繁殖させないために、釣った「オオクチバス」はリリースしないようにしてください。また、生きたまま持ち帰ることや別の池などに放流することは、「外来生物法」で禁止されています。



アルゼンチンアリ

崩れる生態系  
本来、その地域に生息しない外来生物には天敵となる生物がいなかったため、在来生物と競合した場合、在来生物の生息場所を奪い取ってしまうことがあります。最悪の場合、その地域の在来生物を絶滅させてしまう恐れがあります。また、外来生物によって寄生生物やウイルスなどが持ち込まれることも考えられます。

大切なのは扱う人の意識

もともといなかった場所に、人間によって他地域から持ち込まれた外来生物。近年、ペットとして飼われていた動物や昆虫などが捨てられるといったことが問題となつています。外来生物の問題を深刻に受け止め、多くの在来種が住むバランスのとれた自然環境を守りましょう。

環境衛生課

☎ 23局 3 5 4 1 FAX 23局 0 1 8 0